

第26回教育講演会

楽しい時や辛い時、どんなことを考えますか？ —日本人の『苦』と『楽』について、私が思うことから—

十一月十三日(水)にロバートキャンベル氏を招いて、第二六回教育講演会が行われた。キャンベル氏は『楽しい時や辛い時、どんなことを考えますか？—日本人の『苦』と『楽』について、私が思うことから—』という表題で、日本人の苦楽観について講演された。自身の専門分野である日本文学の視点から語られる苦楽観は、我々に新たな知見を与えてくれた。

私はロバートキャンベル氏の講演を聴いて、本当の「楽」を得るには、「苦」を乗り越えなければならぬと思った。

人が「楽」を求めるのは当然だ。しかし人は、「楽」だけを得て生きてもいけない。例え「楽」だけを得られても、それは本当の「楽」と言えない。それは重ねるにつれ「当然」に変わる。「苦」を体験したから、相対的に「楽」を感じられるのだ。

(二の二 林田 拓海)



ロバート キャンベル氏

ニューヨーク州出身。ハーバード大学大学院東アジア言語文化博士課程修了後、九州大学へ研究生として留学した。現在は東京大学大学院にて近代文学を中心に教鞭を執る。メディアへの出演も多く、『スッキリ!』や『Oha!』などに出演している。



私はこの講演を聴いて最高の「楽」とは何かを改めて考えさせられた。私にとつての「楽」とは、決まったものではなくその時々で変化するものだと思えた。運動したら眠りたいし、眠ったら運動したくなる。これが「苦」とか、「楽」などという定義は苦楽には存在せず、時によって変化を繰り返していくものなのだと気づいた。キャンベル氏の話は難しくも、とてもためになるものだった。

(二の九 岩見 壮留)

私はロバートキャンベル氏の講演を聴いて、日本人は感情をあまり出さず、繊細で美しい心を持っているのだと思つた。だからこそ、楽と苦の心を同一視する「苦楽」の精神が成り立つのである。私も将来、日本文学を学んでいく者として、様々な角度から「日本」というものに興味を持つ必要があると実感した。そして日本の良さを知り、自国の文化を海外へ発信していきたいと、強く思うことができた講演であった。

(三の六 山崎 皓陽)

生徒会発足!!

第五期生徒会長の清水紀輝です。私たち第五期生徒会は「生徒による生徒のための環境づくり」を方針に掲げ、「生徒が輝ける学校」づくりを目指します。東高生が毎日、明るく楽しく生活できるように、個々の特技や長所を活かしながら日々職務に励んでいます。

発足後、日も浅く未熟ではありますが、私たちは努力を惜しみませんので、生徒会をよろしく願っています。

(二の九 清水 紀輝)



税に関する作文

今回、税に関する高校生の作文を書くことで、私は改めて税の重要性を実感することができた。表彰式では来賓の皆様が税についての見解、最近話題となった消費税増税をはじめとする増税の意義などをお話ししてくださいました。今現在、社会において税の在り方については様々な議論がなされている。そのため、今回の受賞を契機に、より税への理解を深めていきたいと思つた。

(三の二 福田 仁美)

税に関する作文 受賞おめでとう!

- 埼玉県税務連絡協議会長賞 受賞
3-12 福田 仁美『“願い”を納める』
- 埼玉県租税教育推進協議会長賞 受賞
3-7 堀口 真由『「税」を学ぶということ』
- 本庄税務署長賞 受賞
3-3 新井 冬威『税と私』
- 本庄地区税務協議会会長賞 受賞
3-2 高橋 和子『私と税金』

本庄青葉幼稚園だより

園長 荒木君代

今年も青葉幼稚園の農園では、多くの農作物が収穫できました。幼稚園には共同農園とわんぱく農園の二つの農園があり、そこではじゃがいも、さつまいも、大根などを育てています。主に年長組が収穫を行います。一学期にはじゃがいもを収穫し、お泊り保育のカレーの材料にします。二学期には、写真のようにさつまいも掘りを行います。今年のもので、表面のこぼしが少なく、味も甘みがあつて美味しさと評判です。一人が五本ずつお土産で持ち帰りました。「ふかして食べたよ」「てんぷらにしてたくさん食べたんだ」と嬉しそうなお話を聞くことができました。園内でもなかよしクラブのおやつとして大活躍しました。特にさつまいもご飯、スイートポテト、さつまいもカレーは大人気でした。このように作物の成長に興味や関心を持つことで、園児たちは収穫の喜びを味わっています。それとともに、園児の心や身体の成長も見られました。三学期も、このように青葉幼稚園を楽しく実りの多い園にしていこうと思います。

